



上/ショップフロント。外から店内がよく見えるよう、開口部が広く改装された。右/2階イトインコーナー。エコ素材をテーマにしており、再生紙製の家具が並んでいる。



## エコ素材を用いたフローズン・ヨーグルト店 スノーラ 京都

京都府京都市中京区河原町通三条下奈良屋町 303 イレブンビル

Frozen Yogurt Shop sno:la Kyoto  
Designer Sat Garg + Fujiya

企画/スノーラジャパン 森岡和彦  
アートディレクション/ AkarStudios Sat Garg  
監修/フジヤ 芳賀貴文  
設計/フジヤ 尾形茂雄  
協力/照明 コイズミ照明  
施工/フジヤ  
撮影/荒木義久

### エコ・フレンドリー

「ビュア・オーガニック・フローズン・ヨーグルト」を販売する「スノーラ 京都」は、京都の繁華街である河原町通りの商店街の中心に位置している。通りに面した1階部分に販売スペース、上の階にはイトインスペースがある。くつろげ

る空間は居心地の良い住居、さながらN.Y.やシカゴのブラウンストーンハウスを思い出させる。アメリカ「スノーラ」におけるデザインコンセプトは、エコ・フレンドリーな素材と設計で、環境への配慮を感じさせる販売環境を顧客に提供することである。この指針にのっとり、建材には再生木材なども使われている。

もともとブティックだったこのビルには、内部から外観に至るまで大幅な改装が施された。窓の開閉を妨げていた御影石の外壁を取り外し、エントランスは大型のガラス扉を取り付けるために拡張。結果、店頭は明るく清潔感のある雰囲気になった。改装はメインフロアの天井や壁にも及び、いくつかの壁を取り除いたことで、上



階への階段がお客様の目に触れやすくなった。エントランスの扉に記された[sno:la]ロゴは徐々に色を変え、アーケードの天井にカラフルなイルミネーションを映し出している。しかし、この店舗の目玉となる部分といえば、やはりさまざまなヨーグルトのトッピングが陳列されたショーケースなのは間違いないだろう。

表面はリサイクル素材で覆われ、色調も京都という土地をイメージしたものとした。壁にはさまざまな色彩ボーダーが施されており、サイズやデザインもビバリーヒルズの「スノーラ」で用いたものとはほぼ同じである。共通のデザインにすることで、質感から色調に至るまで本家と統一（並列化）しようと試みた。

販売カウンターのある部分の壁と天井はざくろのような色で、陳列された商品に高級感と魅力を与えている。中層階はライトグリーン、最上階は赤紫色に仕上げられている。京都店の出店は新たなフード販売環境の提案であり、河原町通りの店からも歓迎されるものであろう。  
(Sat Garg / AkarStudios)



販売カウンター。カウンターにはコンピューターチップをリサイクルした素材でつくられた天板が用いられている

## 取締役のひとこと

「スノーラ」はさまざまなオーガニックな素材を使った、フローズンヨーグルトのショップです。ターゲットは地元と観光客の両方を考えており、実際半々の割合で来店され、8割ほどのお客様がイトインで利用されています。オープン後、地元での認知度も上がってきているようで、アーケードを訪れた方がふらりと立ち寄られることも多いようです。

今後は直営店5店舗を開業する予定で、東京にも来年の春オープン予定です。

(上住曜子/文責編集部)

### 「スノーラ 京都」データ

工事種別○内外装 全面改装  
 床面積○120㎡/地下1階~地上3階各30㎡(うち1階厨房13㎡)  
 工期○2008年7月6日~27日  
 施工協力○空調設備、電気設備、給排水衛生設備/オー・エヌ・イー 厨房設備/マルゼン

### 営業内容

開店○2008年7月29日  
 営業時間○午後12時30分~午後9時30分 全曜日/午前12時30分~午後10時 土曜日/午前11時30分~午後10時 日曜日/午前11時30分~午後9時30分  
 定休日○なし  
 電話○(075) 212-7839

### 経営者○株スノーラ・ジャパン

従業員○25人  
 客席数○25席  
 客単価○510円  
 主なメニューと単価: フレーバー6種類280~ トッピング32種類50~

### 主な仕上げ材料

外壁・外部柱○LGS組みケイカル板下地漆喰仕上げ(ウォールドリーム/みはし)  
 サイン○LED  
 床○1階/モルタル下地タイル貼り 2、3階/モルタル下地コンクリートステイン(ナチュラルベージュ色) 仕上げ幅木○MDFボード下地染色  
 壁・天井○LGS組みPB下地水性塗料塗布

